

みんなのおた場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



ありがとう

震災の当日は、ちょうど孫の中学校卒業式の日でした。そしてあの津波が家や街を襲い、孫の一家も、7、8メートルもある波に飲み込まれて、家と共に流されました。2人の孫たちは体力があったのでしよう、近所の方に助けられました。が、ほかの孫2人と、孫たちの母親である私の娘は、力尽きてしまいました。

看護の仕事をしていた娘へ。剣道が得意だった娘へ。あなたの子どもたちは、今、一人は専門学校で福祉を勉強し、もう一人は高校卒業を控え、就職も決まりましたよ。周りの皆さんから協力をいただいで、家の再建もできましたよ。今までありがとう。

(武川 實)

サークル仲間

子育てママの寄りどころ 悩み共有しリフレッシュ

鹿又カントリーキッズ

子育てに励むお母さん同士で交流を深める「鹿又カントリーキッズ」(佐々木淳子代表)は、育児に関する情報交換できる場を持つと、女性たちが平成14年に立ち上げました。現在の会員は20代から30代まで5人で、未就学児のいる子育て中の女性が中心です。毎月第2、4水曜日に集まり、子どもたちを遊ばせたり、子育ての相談や情報交換を行ったりしています。また、子どもの誕生日に

は「お誕生会」を開く等特別な行事があり、子どもはもちろんお母さんたちにも楽しみとなっています。佐々木代表は「子育て中の女性たちにとって、お母さん同士で会話ができれば、胸の内に溜めていたものをはき出すだけで心のリフレッシュにつながります」と話していました。悩みを共有することで気持ちがいよ

文化財たんぽう

(75)

かんとん 広東船漂着の大室浜

石巻市文化財保護委員

武山 文衛

震災発生からもうすぐ3年を迎えようとしている。被災された方々の胸中を察すれば、ことさら心痛むものがある。過日、煙雨の十三浜大室浜を訪ねた。日中友好の歴史を刻む由緒ある地であるが、無情にも先の大震災で浜は一変し、荒涼とした様子に寂しさが募る。

時代は1796(寛政8)年6月7日、船員14人を乗せた中国広東船が大室浜に漂着し、異国船の来航に浜は騒然となり、急ぎよ通詞を呼んで対応したことが、登米伊達家文書、名振永沼家文書からうかがい知ることができると、とき恰も江

鹿又カントリーキッズでは随時メンバーを募集しています。



鹿又カントリーキッズの皆さん

戸幕府が鎖国たけなわの時期である。寝耳に水の一大事に、仙台藩は幕府へ早馬で報告し、指示を仰いだという。

船員14人は、大室浜の浜人の温かい庇護のもとに5カ月間滞在し、当時幕府が唯一門戸開放をしていた長崎へ送還した、と古文書に記されている。送還される折に、船員の一人、陳世徳の詠んだ漢詩が甚く心を打つ。望郷の念と、麗しき日本の山河を愛でる心情の漢詩である。

1993(平成5)年6月、その歴史を探るため、中国広東省汕頭市澄海縣(現、澄海市)を訪れ、船員の末裔と劇的な対面をし、親愛なる日本国から恩人が来訪したという珍事に、多くの住民が熱烈に歓迎してくれたことが、昨日のこのように懐旧される。

幕政の世の幾多の障壁を乗り越え、大室浜の漁民が漂着船員に心血を注いだ、心の文化財としてやまない崇高な人間愛と、3・11の大震災にめげず、隣人により絆を強固にし、生業に黙々と勤しむ十三浜の人々の、今を生きる姿を重ね合せ、目頭が熱くなるのを覚える。

ももとの大室浜の夕風に、父祖の名残の小雨そは降る。

まちの話題

子どもたちの演技で活気

牡鹿地区



12月14日(土) 牡鹿中学校体育館

クリスマスのイベントとして、地元の小中学生による多彩なステージ発表が行われました。出演したのは鮎川、大原、寄磯の3小学校と牡鹿中学校の児童生徒約120人です。吹奏楽、太鼓演奏のほか、古くから伝わる獅子舞や七福神舞等を披露しました。子どもたちの見事な舞台に、集まった地域の人たちからは大きな拍手と歓声が送られていました。

北上地区

12月22日(日)
北上中学校体育館

にぎやかに復興市



きたかみ復興市が開かれ、地場産品の販売やステージイベントでにぎわいました。住民の親睦を深めるとともに、復興支援に訪れているボランティアの皆さんに感謝する目的で震災後から毎年開催しています。1,000人を超える来場者が、今年ももちつき大会やマグロの解体ショー、抽選会等を楽しみました。

石巻地区

はっせ 初競りで復興願う



1月6日(月)石巻魚市場



石巻市水産物地方卸売市場の初競りが行われ、仲買人の威勢の良い掛け声が市場構内に響き渡りました。競り前に行った初売式では、約300人の水産関係者が水産業の復興を願って三本締めを行いました。魚市場は現在、新施設を建設中で、今年秋には一部施設で供用開始の予定です。

石巻地区

1月7日(火)
市内中心部

裸参りで地域に活気



地域の復興や活性化を祈願して、石巻裸参りの会による「石巻どんと祭裸参り」が行われ、若者たちの威勢の良い掛け声がまちに響きました。平成18年から実施しており、今では新年の風物詩に定着しています。今年も身を切るような寒さの中、さらし姿や白装束の男女40人が羽黒山からどんと祭会場の住吉公園内大島神社まで鐘を鳴らしながら勇壮に練り歩きました。